

長崎

慶応 幕末 nagasaki-tabibon

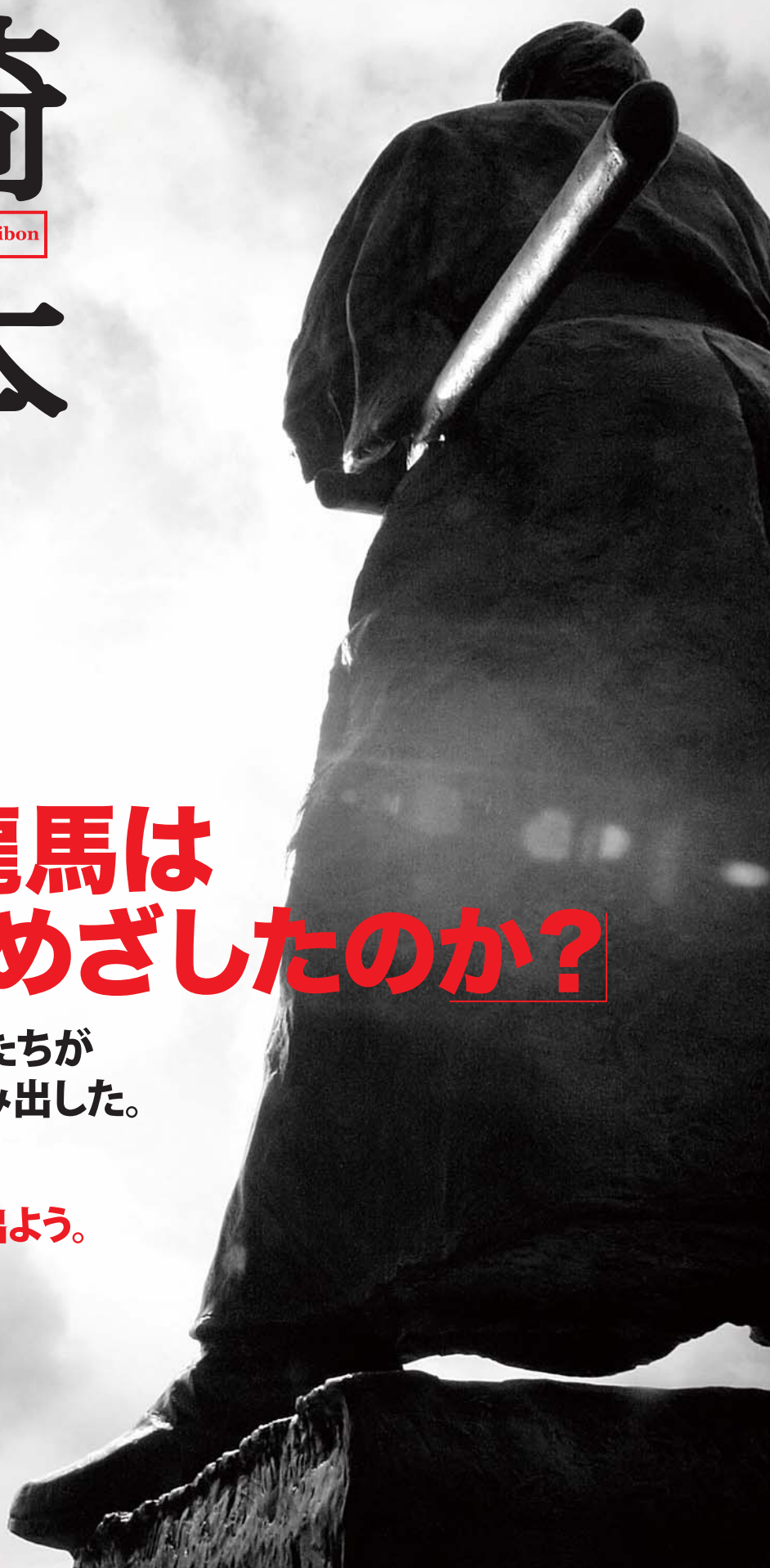
旅本

なぜ、龍馬は 長崎をめざしたのか？

夢を抱いた若者たちが
新しい一歩を踏み出した。

幕末長崎へ旅に出よう。

Nagasaki 1865-1868





いま、話題の人物が集まる希望のまち 長崎をめざせ。

CONTENTS

- 03 慶応「長崎地図」
- 04 平成「長崎地図」
- 05-06 幕末長崎へようこそ!! 今見るべき最新遊山スポットはここだ!
- 07-08 幕末志士も大注目!! 「知の都」長崎で学べ!
- 09 長崎発ビジネスで、目指すは勝ち組!
- 10 幕末長崎の謎に迫る! ①龍馬と外国商人 文=本馬貞夫
- 11-12 龍馬さ〜ん お気に入りの美食店はどこですか?
- 13-14 こんなのがいい? ナガサキ和華蘭みやげ
- 15 異人のすなる「スポオツ」といふもの。
- 16 最新流行の発信地ナガサキ!
- 17-18 龍馬をピンチに陥れた 船にまつわる3大事件
- 19 幕末長崎の謎に迫る! ②龍馬と長崎奉行所 文=本馬貞夫
- 20 口コミ情報満載! 誌上ブログ長崎くんちはこうだった!?
- 21-22 地図上で見る 長崎で活躍した17人の群像&幕末年表

●年齢は数え年とした。
●年月日の表記は和暦であり、改元のあった年は、その年の初めから新しい元号とした。
●『旅する長崎学』近代化ものがたり編をもとに作成。
●その他の参考文献は各頁に記載した。
●撮影取材協力店のデータは平成21年7月現在。
●(イラスト)で、さらに詳しく解説した。

長崎旅本 慶応幕末
平成21年8月発行
企画・発行=長崎県 文化振興課
企画=株式会社 創見
編集・執筆・撮影=スタジオオライズ
デザイン=hi-design!
印刷=凸版印刷株式会社

©tabinaga-bakumatsu2009
本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載および複製を禁じます。

「海舟日記」に見る行程 文久四年(元治元年)1864

坂本龍馬は勝海舟に随行する方たちで、初めて長崎を訪れた。
元治元年、龍馬30歳のときである。

二月十四日 出帆(神戸もしくは大坂)
十五日 佐賀関、着船。即ち徳応寺へ止宿
十六日 豊後鶴崎の本陣へ宿す
十七日 野津原に宿す
十八日 久住に宿す
十九日 内の牧に宿す
二十一日 大津宿に到る。熊本城下新町の本陣に宿す
二十二日 新町出立、馬にて高橋宿に到る
同日より乗船。此夜、島原へ渡る
二十三日 会津(現在の雲仙市愛野町)に宿す
長崎着。日見峠、甚だ難所。福濟寺に宿泊

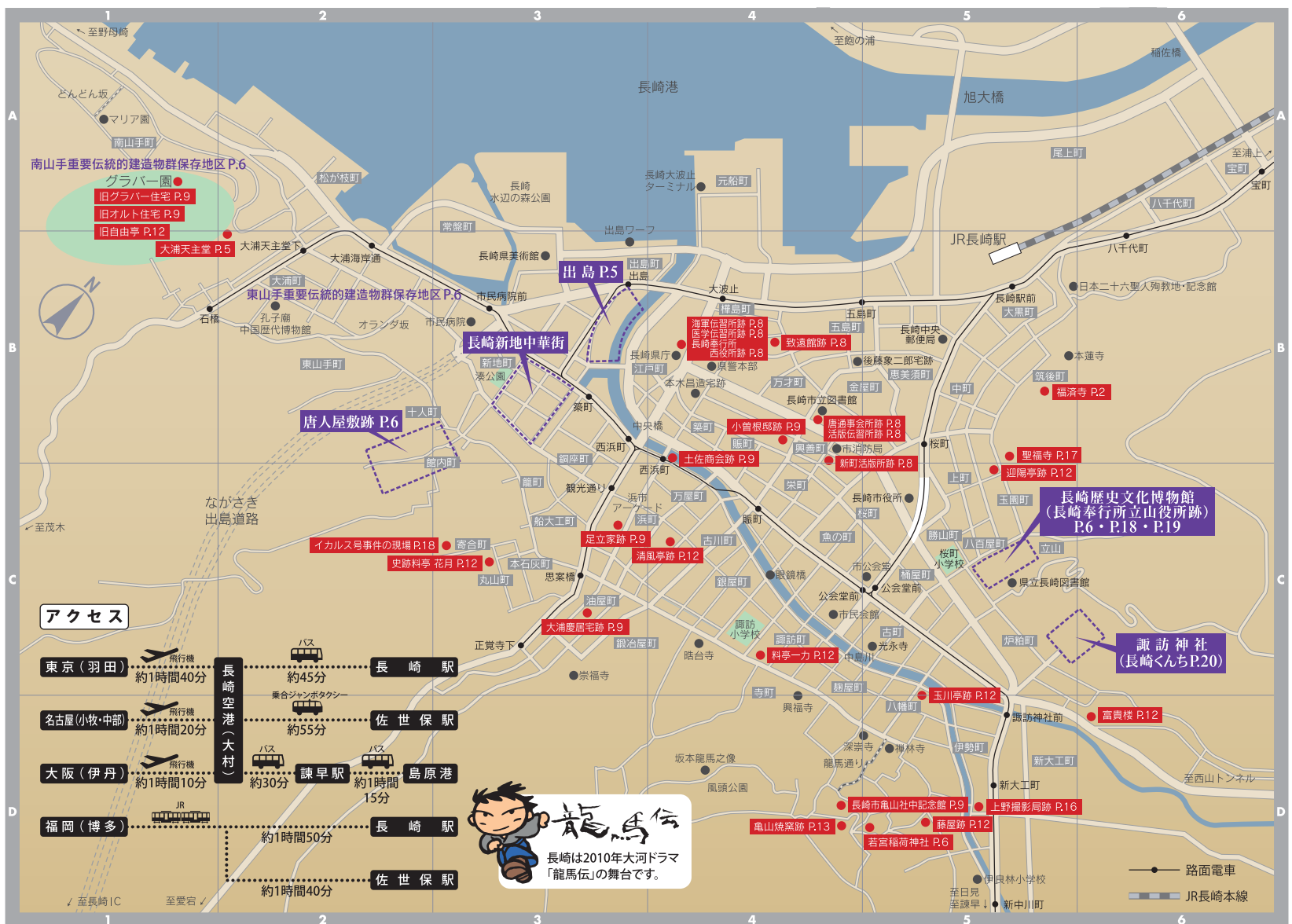
※ — は現在の県境です



「肥前長崎図」(長崎歴史文化博物館蔵)

慶応「長崎地図」

海に囲まれた出島と新地蔵がはっきりと分かる
慶応年間(1865〜68)頃の長崎中心部



平成「長崎地図」

海がかなり埋め立てられ、出島も新地も市街地の一部となっている現在の様子



今 ▼現在はビルが林立する街並み。山の形だけは昔のままです。手前の建物は長崎全日空ホテルグラバービル
MAP P4-A1~B2



西洋の街並みが
長崎港の丘に出現
ひかりまてくみなみやまて
東山手・南山手
長崎居留地として早期に開発されたエリア。東山手は教会や学校、イギリスやポルトガルなど各国の領事館があったので「領事館の丘」と呼ばれました。南山手はイギリス人を中心に個人の住宅が並ぶ高級住宅街。グラバー邸やオルト邸もここに建てられ、今も昔のままの場所で見下ろしています。

昔 ▲南山手のグラバー邸下から大浦居留地越しに出島を遠望。写真右下には現在の長崎全日空ホテルグラバービルの位置にあるペルビュホテルが見えます。ベアト撮影（長崎大学附属図書館所蔵）



今 ◀以前、亀山社中跡の庭にあった高さ約1メートルの龍馬の銅像が、平成21年7月にゆかりの地である若宮稲荷神社境内へ移設されました

▼秋に奉納される「竹ん芸（たけんげい）」は、長崎っ子が楽しみにしているまつりのひとつ



MAP P4-D5

勤王派志士にとって聖地!! 若宮稲荷神社

坂本龍馬の亀山社中から歩いてすぐ。朱い鳥居がいくつも連なる稲荷神社があります。ここには南北朝時代に天皇に仕えた忠臣・楠木正成の守護神「若宮稲荷五社大明神」が祀つてあります。正成といえば、勤王派の志士にとってカリスマ。亀山社中の隊士もよく参拝したといわれており、地元では「勤王神社」とも呼ばれていました。

●中国貿易と唐人屋敷／安政の五カ国条約（1858年）で、日本はアメリカ、イギリス、フランス、ロシア、オランダと自由貿易の条約を結んだ。しかし中国は明治4年（1871）まで無条約のまま。そのため、中国商人は西洋人に附属する形で保護を受け、交易に従事した。一方、中国国内の混乱により中国船の来航がとだえたため、唐人屋敷の中国人の数は減っていき、明治2年（1869）の屋敷炎上により、交易機関としての機能を失った。

今見るべき 最新遊山スポットは ここだ!

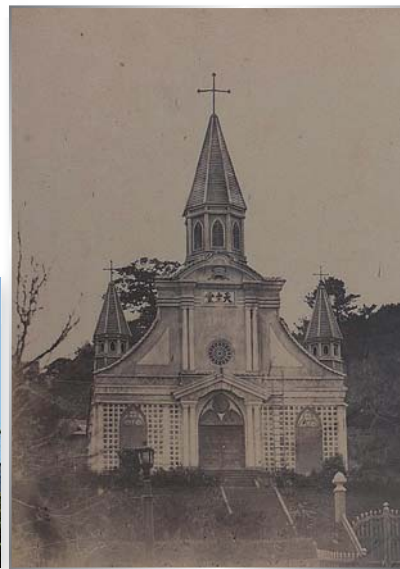
幕末長崎へ
ようこそ!!

安政の開国を迎えた長崎はますます華やかな賑わいに彩られていました。全国からやってくる志士や商人、遊学者たちにとっては見るもの聞くもの珍しいものばかり。あなたも、みやげ話に立ち寄ってみませんか!

昔 ▶創建当時の大浦天主堂。長い禁教時代に信仰を守り続けた「信徒発見」の舞台でもあります（江崎べつ甲店所蔵）

今 ▼明治11年に改修されましたが、内部のゴシック風洋式は当初のまま。現存する日本最古の天主堂で、国宝に指定されています

MAP P4-B2



これが噂の
「フランス寺」
おぼろげにみえる

大浦天主堂

長崎居留地の南山手の丘に、色とりどりのステンドグラスが美しい白亜のカトリック教会が慶応元年（1865）完成。フランスの宣教師フーレ神父とブチジャン神父によつて建てられました。完成当初、長崎の人たちは見たこともない建物を珍しがって見物に集まり、「フランス寺」と呼んで親しんだそうです。



今 ▼佐賀藩神代領時代の武家屋敷の風情を今も残す「神代小路（こうしろくじ）」重要伝統的建造物群保存地区
アクセス
島原鉄道神代町駅より徒歩5分

昔 ▲「神代鍋島日記」（長崎歴史文化博物館蔵）。「御軍艦奉行並勝麟太郎（かつりんたろう）」とあります。横に「上下式拾人」と、配下の龍馬たちはひとくくりにされています



龍馬、初めての 長崎入りはこの道 島原街道

元治元年（1864）、坂本龍馬が勝海舟のお供で初めて長崎にやってくる時、島原半島の北目を通り、長崎街道に入るルートを通ったと思われます。神代には休憩所として勝一行を迎える準備をした記録が残っており、諸説ありますがどうやら一行は島原から神代経由で会津（雲仙市愛野町）に向かったようです。

今 ▶明治37年（1904）完成の港湾埋め立て工事で扇形の島の姿を失った出島は、平成の復元整備で出島表門、建物や護岸石垣の一部が往時の姿をよみがえらしました

MAP P4-B3



各国の外国人が住む 居留地

周囲520メートルあまりの扇形の人工島。鎖国時代は海外貿易の窓口となり、オランダ商館が置かれました。200年以上オランダ商館員だけが居住を許されましたが、出島が居留地に編入されてからは一般の外国人も居住することになりました。

政治不穏の幕末は とくに重責 長崎奉行所 立山役所

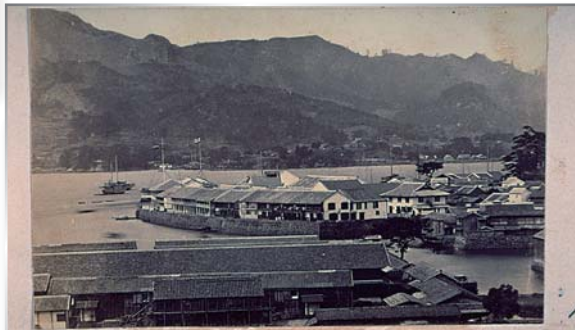


今 ▶立山役所跡は、現在は長崎歴史文化博物館。奉行所建物などが一部復元され、当時の石段が今も残ります
MAP P4-C5

長崎奉行所 龍馬伝

2010.1.9~2011.1.10 予定 2010年大河ドラマ「龍馬伝」（NHK）の放送にあわせて、坂本龍馬の人物像や時代背景などを紹介するドラマ館がオープン。
長崎歴史文化博物館 ☎095-818-8366

昔 ◀出島の原型をとどめる慶応元年の貴重な写真。手前は新地蔵、対岸は稲佐のロシア人居留地。ベアト撮影（長崎大学附属図書館所蔵）



Sketch of Nagasaki, the British Settlement at Nagasaki, & Russian settlement the opposite side of the bay. June 68.

●参考文献／『長崎県文化百選 事始め編』（長崎県、長崎新聞社）、『長崎異人街誌』（浜崎国男、葦原房）

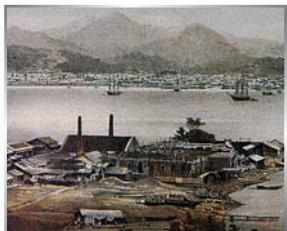
●プラスナビ 「大浦天主堂」は、世界遺産暫定リストに記載されている『長崎の教会群とキリスト教関連遺産』の構成資産のひとつである。

「知の都」長崎で学べ！

長崎は当時最先端の西洋の知識や情報、技術の入り口でした。日本中から優秀な人材が集まって学び、また日本全国に広がっていきます。長崎は“近代化の学校”だったのです。



今 ▲三菱重工業(株)長崎造船所史料館。日本の重工業の近代化に大きな役割を果たした造船の歴史がよく分かります
アクセス ながさき出島道路から国道202、旭大橋を経由し飽の浦方面へ車で約15分。飽の浦公園前バス停前



昔 ▶万延元年(1860)頃と推定される建設中の長崎製鉄所。鋳物場、鍛冶場、機械加工場などをそなえていました
今 (三菱重工業(株)長崎造船所蔵)

はじまりは
海軍伝習所だった

長崎製鉄所

長崎海軍伝習所が開設されると、総取締の永井尚志は軍艦の修理を行う施設が必要と判断。安政4年(1857)、ヤパン号(のちの咸臨丸)で来日したオランダ海軍機関方士官ハルデスの指導で、長崎の稲佐郷飽ノ浦に「長崎製鉄所(当初は長崎鋳鉄所)」の建設が始まり、4年後に完成。これが今日の「三菱重工業(株)長崎造船所」に発展していきます。



今 ▲北溪井坑は明治9年(1876)に浸水のため閉坑。その後井戸として使われていました。今もその跡が残っています
アクセス 長崎港大波止ターミナルから船で約35分



昔 ▼掘り出した石炭をトロッコで運ぶのも当時の日本人には驚きでした(長崎歴史文化博物館蔵)



グラバーが
洋式採炭技術を
導入して開発

高島炭鉱

蒸気船や製鉄所の燃料として石炭の需要が高まった明治元年(1868)、高島炭鉱を操業していた佐賀藩とグラバーとの間に共同経営契約が成立。グラバーは蒸気動力、給水ポンプなどを導入し、日本最初の洋式豎坑「北溪井坑」を開坑します。明治14年(1881)に後藤象二郎から三菱へ所有が移り、国内有数の炭鉱へと成長。昭和61年(1986)の開山までに5500万トンを出炭しました。

日本最古のドックの遺構が今も残る

小菅修船場跡

薩摩藩は多くの艦船を持っていましたが、修理をするドックが国内にはありませんでした。そこで小松帯刀、五代友厚らは、艦船の出入りが多く製鉄所もある長崎にドックを造ろうと計画。薩摩藩と英国商人グラバーが共同出資して、明治元年(1868)に約1000トンの船を曳き揚げられる日本初の近代洋式ドックが完成しました。



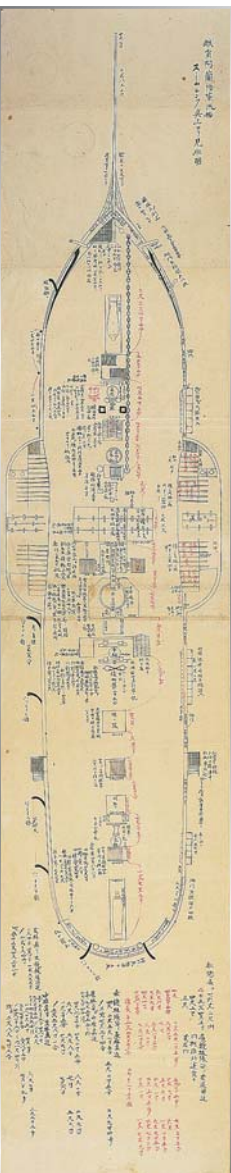
昔 ▲曳揚げ機、ボイラー、蒸気機関などを海外から輸入。架台の形から「そろばんドック」と呼ばれ親しまれました
今 (三菱重工業(株)長崎造船所蔵)

今 ▼現在はほぼ当時のまま復元され、ハウステンボス(佐世保市)のクルーズ観光船として活躍中です
アクセス 長崎空港から高速船で50分



©ハウステンボス/J-11918

勝海舟らが航海術を
学んだ蒸気船
観光丸



昔 ▲「献貢阿蘭陀蒸気船スームピング真上ヨリ見取図」(明治初期写)。真上から見たスピン号(観光丸)の詳細な内部構造がわかります(長崎歴史文化博物館蔵)



世界の新しい知識の翻訳者

唐通事とオランダ通詞

「唐通事」「オランダ通詞」は、貿易都市長崎ならではの役職。彼らはただの通訳ではありませんでした。外国語を通して医学や科学に関心を持ち、海外のすぐれた学問が彼らの力で翻訳され、日本に紹介されていきます。幕末には英語やフランス語を習得し、海外との交渉に活躍する者もいました。



MAP P4-B4

昔 ▲優れた医者でもあったオランダ通詞・吉雄耕牛が序文を寄せた「解体新書」(長崎歴史文化博物館蔵)

今 ▲長崎市立図書館横にある唐通事会所跡の石碑

致遠館はのちの
早稲田大学
英語伝習所と
致遠館

各国の外国船が入港するようになると、広く語学の修得が急務となります。国際人の育成に貢献した2つの語学校(洋学校)が長崎にありました。1つは幕府の指示で開設された「英語伝習所」。もう1つは佐賀藩・大隈重信が設立した「致遠館」です。両校の教師を務めたフルベッキの指導のもと、のちの明治政府のリーダーたちが果立っていました。



昔 ▼英語伝習所のその後の名称「広運館」の学生とフルベッキ(中央)(長崎歴史文化博物館蔵)



MAP P4-B4

ここから近代化の技術は広がった

海軍伝習所

ペリー来航で海軍の必要性を知った幕府がオランダの協力を得て実現した海軍教育の学校です。伝習生には勝海舟、榎本武揚らがいました。第1次伝習の教官団はスピン号で来日。第2次伝習の練習船ヤーパン号には近代西洋医学を伝えたボンペや長崎製鉄所建設に尽力したハルデスも乗艦していました。



今 ▲かつて長崎奉行所西役所だった現在の長崎県庁に、海軍伝習所跡の石碑が建っています

MAP P4-B4



昔 ▶「小島養生所の図」(長崎歴史文化博物館蔵)。長崎小島郷にありました

近代西洋医学教育の父
ボンペ来日

医学伝習所

海軍伝習所の教官の1人として来日したボンペが、安政4年(1857)長崎奉行所西役所で始めた医学伝習は、日本人が西洋医学を初めて体系的に教わるものでした。やがてボンペの進言で病院と学校を備えた「小島養生所」が開設されます。これは日本初の近代的設備をそなえた病院でした。

昔 ▼本木昌造が発行した日本初の地方新聞「崎陽雑報」(長崎歴史文化博物館蔵)



今 ▼活版伝習所跡の石碑

MAP P4-B4



日本に印刷革命をもたらし
活版印刷

オランダ通詞・本木昌造は、欧米の活字を見本に独自の日本の活字を作ります。さらにアメリカ人ガンプルを講師に招き、「長崎活版伝習所」を開設。日本での活版印刷術を完成させ、明治3年(1870)長崎に「新町活版所」を開きます。大阪、東京築地にも活版所がつくられ、そこから日本の印刷文化を飛躍させたのです。

●**アラスナロ** 「英語伝習所」は名称も場所もさまざまに変遷。まず始まりは安政4年(1857)長崎奉行所西役所内に幕府の指示で開かれた「語学伝習所」、翌年に立山の岩原目付屋敷に移り「英語伝習所」となった。その後、移転を繰り返し「英語所」「語学所」「洋学所」「済美館」「広運館」と名称も変わる。当初は英語だけだったが、フランス語やロシア語が加わり、さらには地理、歴史、数学、物理、科学、天文、経済なども教えた。

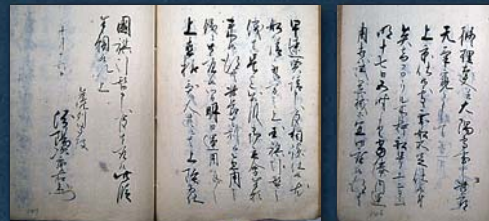
●参考文献／「長崎造船所150年史」(長崎造船所150年史編纂委員会)、『勝海舟と幕末長崎』(長崎歴史文化博物館)

●**アラスナロ** 「小菅修船場跡」「北溪井坑跡」「端島炭坑(軍艦島)」「旧グラバー住宅」は、世界遺産暫定リストに記載されている『九州・山口の近代化産業遺産群』の構成資産である。

本馬先生の「幕末長崎の謎に迫る!①」

龍馬と外国商人

長崎県参与 本馬 貞夫



薩摩藩名義で「ユニオン号」を購入したことを記す長崎奉行書文書（長崎歴史文化博物館蔵）

銃砲・艦船の輸入

幕末の動乱期、薩摩藩を筆頭に有力諸藩は、あらそって銃砲・艦船を長崎居留地の外国商人から購入した。

長崎奉行所の運上所（税関機能の役所）に届けられた小銃の輸入状況をみてみよう。慶応2年（1866）では薩摩藩2,180挺、佐賀藩1,607挺、熊本藩1,520挺、土佐藩1,100挺、加賀藩1,000挺ほか12藩合計10,223挺であった。また、慶応3年では熊本藩が9,734挺と抜き出ており、続いて広島藩5,040挺、福岡藩2,300挺、薩摩藩2,116挺、佐賀藩1,639挺、26藩（日田郡代を含む）合計28,138挺となっている。

長崎では艦船の取引も盛んだった。文久元年（1861）以降慶応3年まで、長崎奉行所文書で確認できる諸藩の輸入艦船は55隻、うち薩摩藩が17隻を占め（長州藩への名義貸しなどを含む）、続いて土佐藩6隻、福岡藩5隻、熊本藩4隻、佐賀藩3隻、加賀藩3隻等となっている。

龍馬社中の船

さて、龍馬の社中が運行した艦船についてみてみよう。まず、慶応元年10月に長州藩が出資し、薩摩藩名義で購入した「ユニオン号」

だが、これはグラバー商社からの購入である。当時朝敵だった長州藩は公然と外国商人と折衝することができず、龍馬社中の仲介で薩摩藩名義での購入となったわけである。薩摩藩では「桜島丸」といい、長州藩では「乙丑丸」という。

ユニオン号は、いずれ長州藩に引き渡さねばならず、代わりに薩摩藩がグラバー商社から購入してくれた船がワイルウェブ号であったが、慶応2年5月2日、五島沖で難破してしまった。有川には慰霊碑が存在する。

ユニオン号の引き渡しで運用する船がなくなった社中が、同年10月薩摩藩の後援で購入したのが大極丸である。購入先については、これまでプロシア商人チョルチとも、アメリカ商人ウォルスとも言われてきたが、長崎の居留地史料を使って解釈すれば氷解する。ウォルス商社内のチョルチからというわけである。おそらくチョルチはウォルスのパートナー（出資者）であろう。このように、貿易商人個人名と商社名が異なる場合もある。

龍馬最後の武器取引

『海援隊商事秘記』によれば、慶応3年9月に龍馬はライフル銃1,300挺を出島の「蘭商ハットマン」（ハットマン商社）から購入して、

その大半を土佐に運んだとある。契約書の写しから、取引の内容をもう少し詳しくみてみよう。

ライフル銃1,300挺の代価は18,875両、このうち4,000両余を払い、残り14,490両を90日で皆済するという契約条項が、「松平土佐守内 才谷梅太郎」と「ハットマン商社」の間で結ばれた。

ハットマンはハルトマンと考えられるので、長崎居留地関係史料から出島のハルトマン商社をさがすと、プロシア系のレーマン＝ハルトマン商社と、オランダ系のハルトマン＝ベシール商社が見つかった。これについて種々の史料を検討した結果、現時点では「ハットマン商社」はハルトマン＝ベシール商社のことと推定される。

なお、龍馬の保証人は「廣瀬や丈吉 鉄屋与一郎」とあるが、このうち広瀬屋丈吉は恵美須町に居住する商人で、当時龍馬が下宿していたところである。残念ながら、広瀬屋丈吉家が恵美須町のどこに所在したかよくわからない。

※才谷梅太郎（さいだにうめたろう）／坂本龍馬の変名



長崎歴史文化博物館蔵

炭鉱もビール会社もつくりました トーマス・グラバー

雄藩や幕府に武器・艦船を売買する冒険的ビジネスで大成功。一方政治好きで、志士らを援助しました。帳簿管理もずさんな信用取引のせいで、維新後は売掛金が回収できず倒産。開発した高島炭鉱のご縁でその後は三菱の顧問に。



旧グラバー住宅 ※グラバー園内に現存

MAP P4-A1



長崎歴史文化博物館蔵

19歳で来日したやり手商人 ウィリアム・オルト

19歳で長崎へ渡りオルト商会設立。グラバーと並んで有力な英国商人。長崎の大浦慶と組んで製茶貿易で巨額の利益を得ます。岩崎弥太郎との関係も深く、明治に入ると共に大阪に拠点を移しますが、体調不良で帰国。その後は悠々自適に暮らしました。



旧オルト住宅 ※グラバー園内に現存

MAP P4-A1



小曽根吉郎氏所蔵

ありがたーい大造成事業 小曽根家

長崎を代表する豪商で、龍馬の社中は一時期、ここを本拠としました。13代目の乾堂は福井藩の援助で浪ノ平一帯の大造成工事を成し遂げ、今も「小曽根」の地名が残ります。

会津産和人参（薬用人参）を輸出 足立家

会津藩御用達として一手に和人参を取り扱った豪商。しかし明治維新後、会津が朝敵になると、混乱の中で和人参を没収されます。5年かけて長崎県に嘆願しお金は戻ったものの、商売の再興はできず没落。



小曽根邸跡

MAP P4-B4



長崎歴史文化博物館蔵

今、日本茶がキテル！ 大浦慶

長崎油屋町の老舗油問屋の娘。海外情報の収集に努め、当時誰も思いつかなかった日本茶の輸出事業を興します。九州各地の茶の産地の生産拡大をはかり、英国商人オルトと組んで莫大な富を築きました。国際的な商取引の感覚にすぐれ、外国商人からも「信用できる日本商人」と評価。海援隊など勤王志士のスポンサーであったとも言われています。後に「遠山事件」と呼ばれる悪質な詐欺にあい没落。晩年に製茶貿易の功績が認められ、明治政府から功労褒賞を贈られました。



大浦けい居宅跡

MAP P4-C3



モーション御値引ナサレ

Take a little more off.

其ノ値デワ売マセヌ

I can't sell it at such a price.

其ノ値デワ買マセヌ

I can't take it at such price.

上納モ加テイマスカ

Is it with duty too?

箱代モ入テイマスカ

the boxes?

Does that price include the boxes?

何ヲ御覧ナサルカ

What would you like to see?

御上リナサレ

Walk in.

私ヲ買物ニマイツタ

I come to buy something.

アイコム トゥ バイソム

I come to buy some-

thing.

御上リナサレ

Walk in.

私ヲ買物ニマイツタ

I come to buy something.

アイコム トゥ バイソム

I come to buy some-

thing.

御上リナサレ

Walk in.

私ヲ買物ニマイツタ

I come to buy something.

●龍馬の調査研究は、これまで土佐・上方が中心で、長崎における龍馬の動静については十分でなかったように思う。特に長崎居留地の外国商人との関係は今後の課題であろう。



●本馬貞夫 ほんまさだお●

1948年長崎市生まれ。山口大学文理学部国史専攻卒。長崎県立高等学校教諭、長崎県立長崎図書館郷土課長、同副館長を経て、現在長崎県参与。著書に『貿易都市長崎の研究』など。

●参考文献／『貿易都市長崎の研究』（本馬貞夫、九州大学出版会）、『大浦慶女伝ノート』（本馬恭子）

●アラスナビ P7のプラスナビを参照。

長崎発ビジネスで 目指すは勝ち組！

Nagasaki
Dream!!!

安政の開国（1859年）後、幕末の長崎では、一攫千金を夢見る外国の冒険商人や、富国強兵を目指す諸藩の武士たち、商売を拡大したい長崎商人などのドラマがありました。彼らが見たナガサキ・ドリームとは!?

「長崎はわしの希望じゃ」

「龍馬がゆく 怒涛編」(司馬遼太郎／文藝春秋)より



長崎歴史文化博物館蔵

自由でフランクなカンパニー

さかもとりょうま

坂本龍馬

MAP P4-D4

日本初の商社を長崎・亀山の地に設立。神戸操練所仕込みの操船技術で海運業を営む一方で、討幕を目指す政治結社でもありました。出身、身分、思想を問わず「海外ノ志アル」人材を受け入れました。



長崎市亀山社中記念館 ※平成21年8月1日に亀山社中跡にオープン



国立国会図書館蔵

東洋の海運王に大大出世！

いわさきやたろう

岩崎弥太郎

MAP P4-B4

長崎で「土佐商会」主任を務め、特産品の樟脳、かつお節などを売り、武器・艦船を購入。海援隊のサイフも握っていました。明治に入ると海援隊と藩の海運事業を引き継ぎ、経営者として一本立ち。のちに三菱財閥を築きます。



土佐商会跡

日本を変えた 今はなき料亭



幕末の志士たちが通い、
時代を動かした夢の跡を振り返る

土佐海援隊がこの会談で誕生 清風亭

MAP P4-C4

慶応3年(1867)1月、仇敵だった土佐藩の後藤象二郎と坂本龍馬の歴史的会談が行われた場所です。12畳と8畳の部屋だけという土佐藩御用達の小さな店だったと言われています。平成21年に現在の万屋町に所在地が特定されました。

長州藩と土佐藩が面会

五川亭

MAP P4-C5

目の前に中島川が流れるこの料亭の名物は川魚料理でした。慶応3年(1867)8月、坂本龍馬のあっせん^{あきせんと}で長州藩士の桂小五郎と土佐藩士の佐々木高行とが面会した場所として知られています。現在は保育園になっています。

自由亭と並ぶ西洋料理店

藤屋

MAP P4-D5

もともとは日本料理店でしたが、慶応元年(1865)から西洋料理店に。フランス料理を習得した店主・松尾清兵衛は、フルベッキが佐賀に招待された折には、出張料理を手がけるほどで、グラバーも常連客だったようです。

VIP対応の名料亭

迎陽亭

MAP P4-C5

文化元年(1804)創業。長崎奉行所関係の援助も受けた名亭で、各藩と奉行所役人の宴席がもうけられた由緒ある場所。後藤象二郎や松方正義、夏目漱石ほか、明治からは皇族方の宿所にもなっていました。



慶応のイチオシ名店ぜよ!!

料亭一力

いちりき

しっぽく

長州藩士らの御用達料亭

初代の山本保助が長崎で唐の毛皮商・陳健の屋敷を買い取り、文化10年(1813)に料亭「一力」を開業。2代目山本かねは女傑とのウワサも。店には坂本龍馬、長州藩士の高杉晋作、久坂玄瑞、井上馨、伊藤博文などが訪れたそうです。



現在も営業中。数ある長崎の料亭の中でも歴史があり、長崎の代表料理である卓袱料理はもちろん、西洋料理を供していた時期もあったことにちなみ卓袱料理のルーツ「ターフル料理」も現代風にアレンジして用意。伊東深水、山本森之助などの絵画も必見です。

MAP P4-C4 所 長崎市諏訪町8-20
TEL 095-824-0226

千秋亭吉田屋

せんしゅうてい よしだや

しっぽく

宮様から元勳、岩崎弥太郎まで…

明暦元年(1655)に料亭「千秋亭」または「吉田屋」と屋号を併称して営業と伝わる名亭。蜀山人^{しよくさんじん}が「…こげん月はえつとなかばい」と謳い、「崎陽松の森千秋亭」として名を馳せました。幕末には岩崎弥太郎や坂本龍馬なども訪れていたようです。



明治22年(1889)に、当時の内閣総理大臣・伊藤博文が訪れた際、女将の内田トミが店の命名を頼んだことにより「富貴楼^{ふきろう}」と改名。現在も昔と同じ場所^{いままじき}で営業中。

MAP P4-D6 所 長崎山上西山町5-4
TEL 095-822-0253

引田屋花月楼

ひけたやかげつろう

しっぽく

お気に入りの遊女もいたとか…

寛永19年(1642)創業という、花街丸山の中でも随一の歴史と格の高さを誇る太夫屋「引田屋」。庭園内には花月という茶屋がありました。一流の遊女が在籍しており、接待や情報交換のサロンとして多くの志士たちに利用されました。



現在も茶屋であった花月の建物をいかして「史跡料亭花月」として営業。宝暦時代からの庭園を望む「竜の間」には龍馬がつけたと言われる刀傷が床柱に残されているほか、料亭内にある史料館「集古館」には、イカルス号事件のときの龍馬の書もあります。

MAP P4-C3 所 長崎市丸山町2-1
TEL 095-822-0191

西洋料理 自由亭

じゅうてい

洋食

長崎発祥の西洋料理専門店

開業当時は「良林亭」でしたが、のちに「自遊亭」さらに慶応元年(1865)に「自由亭」と改名しました。料理代は今の金額で1人分が約1万8000円とも! 要予約で6人まで…とまさに高級レストラン。それでも予約を取るのが大変だったそうです。



現在はグラバー園内に旧自由亭として移築公開されています。建物の2階が「喫茶室自由亭」になっており、長崎港を望みながらくつろぎのひとときを過ごすことができます。

MAP P4-A1 所 長崎南山手町8-1
TEL 095-823-8770



期間
限定

長崎発祥「龍馬が愛した西洋料理」

独自に創作した幕末の西洋料理を長崎市内のホテルやレストランで
味わえます。提供店など詳細はお問い合わせください。

■幕末西洋料理を考える会事務局(長崎市水産農林部 ながさきの食推進室)
TEL 095-820-6568

◆取材協力: ベストウエスタンプレミアホテル長崎
写真は「グラバー邸・スコットランド料理編」の料理

龍馬の食べ友? 佐々木高行

ささきたかゆき

イカルス号事件解決や大政奉還実現のため龍馬と力を合わせた人物。「佐々木高行日記」では、しばしば龍馬との食事についてふれています。長崎奉行河津伊豆守の逃亡後、西役所占拠のため海援隊士を結集させたのは、二人がよく通った川魚料理の店「玉川亭」でした。



国立国会図書館所蔵



現在、グラバー園内に移築公開されている旧自由亭の横には、西洋料理発祥を記念した碑があります

龍馬さ〜ん お気に入りの 美食店はどこですか?



和食に卓袱料理、西洋料理と長崎の食文化は花盛り! 龍馬も通った幕末の「食の場」は舌を楽しませるだけでなく、日本という国も変える重要性も秘めていました。

西洋料理を学んだ 草野丈吉という男

日本人として初めて西洋料理

専門店をオープンさせたのが長崎出身の草野丈吉です。少年時代にオランダ人の下で出島で働き、料理部屋で作られる西洋料理に強い興味を持ちました。それから、オランダ軍艦セロット号の乗員となり、航海しながら、船内や寄港した横浜などでみっちり修業を積むことになるのです。西洋料理の術を習得した丈

吉の味と腕は確かなもので、長崎奉行所のVIPはもとより外国人にも賞賛されます。そして、英国商人グラバーと接していた五代友厚との出会いにより、丈吉は生家を改造して文久3年(1863)に念願の店「良林亭^{りょうりんてい}」(のちに自由亭)を開業するのです。

五代友厚は坂本龍馬の亀山社中運営においての相談相手。外国人の接待や会談などで龍馬も西洋料理を大いに食したはずで、龍馬が長崎を拠点に活躍し

ていた慶応年間には、全国に先駆けてすでに3つの西洋料理店があったようです。「自由亭」「福屋」「藤屋」。なかでも藤屋は、龍馬の手紙や、土佐藩の重役・佐々木高行の日記にも名前が登場しています。さらにこの時代、「蛭茶屋」「吉田屋(現在、富貴楼)」「迎陽亭」「力」「玉川亭」など有名料理店が繁盛。土佐藩御用達ともいわれた「清風亭」では土佐藩の後藤象二郎と坂本龍馬が会談し、ふたりはたいへん意気投合したといえます。これに

より龍馬は脱藩が許されるだけでなく、土佐藩が亀山社中のスポンサーとなり「土佐海援隊」へと再編されるのです。一食の場こそが歴史を動かした現場だったのですね。

●参考文献『長崎の西洋料理―洋食のあけぼの―』(越中哲也、第一法規出版)、『長崎市史 風俗編』(清文堂出版株式会社)、『保古飛呂比 佐々木高行日記』(東大出版会)

●アラスナビ 江戸時代の幕臣で狂歌師。号は大田南畝(おおたなんぼ)といい、蜀山人は別名。ほかにも四方赤良(よものあから)などの異名を持つ。19歳で狂詩集『瓊徳(ねほけ)先生文集』を出版。その後も狂歌集や洒落本、膨大な随筆を残し、狂歌師はもとより戯作者や学者など文人として活躍。江戸中期から後期の文芸に花を開かせた。50歳になってからは役人の仕事に専念し、大坂や長崎を訪れている。

龍馬も好んだ？
幕末みやげ

甘い菓子に苦い「かうひい」。
モノ珍しい西洋の食べ物に
龍馬も果敢に挑んだハズ？！

かすてらで商売してみらんね！

カステラ

海援隊雑記帳には「カステイラ仕様」が記されています。「玉子百目、うどん（小麦粉）七十目、さとふ（砂糖）百目…」。龍馬が商売にでもしようとしたのでしょうか？ 幕末の頃の配合でカステラを作ってみると、現在のようなしっとり感はないものの甘さと香りは今とほとんど変わりません。ポルトガルの宣教師が日本に伝えたと言われる南蛮菓子は、長崎の和菓子職人たちが海外からの貴重な砂糖を使って今の味と形にした、言わばナガサキオリジナルの菓子となったのです。

◆撮影協力：松翁軒

泡の出る酒は知っとんね！

ビール

出島のオランダ商館長ヘンドリック・ドゥーフは、フランス革命戦争によって国が消滅し、船の入港はおろか祖国からの物資が途絶える危機に陥っていました。そこで、大好物のビールを自らつくったのが日本でのビール醸造の始まりとされています。幕末には英国商人グラバーたちも愛飲していました。では、龍馬も飲んだのか？ 長崎の旧家に、ビールをもらったことに対する龍馬からの礼状が残っていたとされ、その事実は濃厚のようです。

黒かとかい、苦かとかい

コーヒー（かうひい）

コーヒーは出島のオランダ人が飲んでいたので、奉行所の役人などが出島を訪れた際に接待用として出されていました。当時の日本人の口にはあわなかったようで、味わたる蜀山人は「焦げくさくて味ふに堪ず」と言っています。一般に普及したのは明治に入ってからのことだそうです。

「ポコン・ポコン」 ガラス玩具の代表作

現在は「ポップン」「ビードロ」の呼び名が主流ですが、細長い管から軽く息を吹くとポコン・ポコンと音がでることから昔はこう呼ばれていました。最初はオランダ人が持ち込み、子どもや丸山の遊女が遊んでいたと言われ、夏の祇園さんでも売られ始めます。青色と紫色が多かったそうです。

◆撮影協力：ガラスロード1571



乳の出がよくなる！ 女性のための甘い 「口砂香」

「口砂香」は西川如見の「長崎夜話草」には「香沙糖カウサカウ」と書かれています。いり餅米粉に砂糖を混ぜて、一口大の形（主に梅）にした打ち物干菓子で茶菓子に使われていました。乳の出が良くなる！とか、溶いて乳児に与えると乳代わりによい！とかで、産婦の見舞い品として用いられていたそうです。うるち米などを原料にした「落雁」はお仏壇のお供え物としてもよく目にしますが、長崎ではこれも含めて口砂香と呼ぶこともあるようです。

◆撮影協力：白水堂

権力者への贈答品だった 「金平糖」

小さいくせに角をとがらせた砂糖の塊が金平糖です。ポルトガルから伝えられた南蛮菓子のひとつで、完成まで2週間もかかります。当時、砂糖はお金に匹敵するほど貴重なもので、権力者への贈り物として重宝されていました。永禄12年（1569）に宣教師ルイス・フロイスが、ガラス瓶に入った金平糖を織田信長に献上したことはあまりにも有名です。



龍馬も愛用した幻の「亀山焼」

幻と言われる理由は、画家木下逸雲など有名文人墨客の絵付けであり、コウモリやザクロなど南画風の美しい絵柄が長崎独特のものとされているからです。また、開窯してからわずか58年でその歴史に幕を下ろしたため、数も少なく貴重とされています。龍馬が設立した亀山社中は亀山焼が閉窯したあとの施設を借用したと言われ、亀山焼の湯呑みを龍馬が愛用していたとか。

◆撮影協力：旨いとかかつ・海老フライ文治郎



▲中国を感じさせる「角龍」が縁に描かれた復元柄のコーヒーカップ



▲本物の五寸焼
▼復元した五寸焼

オーイ こんなのが？

ナガサキ和華蘭みやげ

異国文化に彩られたナガサキというまちが生んだ
ハイカラで、甘くて、斬新なみやげを紹介。



◆長崎歴史文化博物館蔵



時代と文化と風物を表した「長崎古版画」



最新流行の発信地 ナガサキ!

写真、舶来土産、明清楽の月琴ブーム。西洋、中国との海外貿易で栄えた幕末の長崎は、最新カルチャーの発信地でもありました。

BOOM!!!
BOOM!!!

「ポトガラヒー」 上野撮影局へようこそ!

当撮影局自慢の「湿板写真」は、撮影時間も短く写りもあざやか。銀2分で記念に残るポートレートが出来上がり。お名刺代わりにもいかが?

フル
BOOM!!!
①

MENU
2



「上野彦馬と家族」 (1869年)

大切なご家族と一緒に、記念の1枚を。永遠の家族の絆はきっとかけがえのない宝物になるはずです。

MENU
1

「芸者」(1864年)
自然なポーズでのポートレート。今のあなたの美しさを、印画紙の上に時を止めて…。人物撮影に定評の当局ならではの。



うえのひこま
上野彦馬



古写真はすべて
学校法人産業能率大学
上野一郎氏所蔵

MENU
3

「鶏の置物に乗った西洋人男性」 (1891年)

現実を忘れて、思い切り幻想の世界にトリップしたい。そんなご希望にも、独創的な演出と技術でお応えします。



MENU
4

「二人の上野彦馬、 トリック写真」(1891年)

おやおや?自分が2人?ユーレイではありません。多重露光によるトリックです。遊び心あふれる不思議写真。



さあオーダーは
お好み次第…!!



MAP P4-D5

フル
BOOM!!!
③

幕末に大流行した月琴

月琴は中国から伝わった明清楽の楽器で、江戸時代に長崎に伝わり明治半ばまで大流行しました。龍馬の妻・お龍は、本場・長崎で学びたいと小曽根家の世話になります。亀山社中のスポンサーでもあった小曽根家は、乾室をはじめ月琴の名手揃いでした。流行は日清戦争後、急速に衰えます。今日、この歌と技法は、「長崎明清楽保存会」によって伝承されています。



龍馬がもてる理由のひとつかも!?

上野彦馬と写真術

上野彦馬の父、俊之丞は日本で最初に銀板写真機ダゲレオタイプを手に入れた人。その父にしてこの息子あり。彦馬は、オランダ人医師ボンベに「舎密学」(化学)を学び、それをきっかけに湿板写真に出会います。当時、写真術に使う薬液もすべて自分で作らなければならず、もともと化学者であった彦馬にして可能なことでした。やがて彦馬はスイス人写真家ロツシェに撮影術を学び、文久2年(1862)、日本で最初のプロカメラマンとして中島川沿いに上野撮影局を開業したのです。坂本龍馬が手を懐に入れて台にもたれる有名な写真も、この撮影局で写されました。

フル
BOOM!!!
②

長崎の舶来品を プレゼントに

ハズさない男、
坂本龍馬!



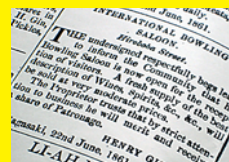
異人のすなる 「スポオツ」といふもの。

サッカー、テニス、ゴルフ。ゼーンぶ、今ではおなじみのスポーツ。これらはもともと居留地時代に外国人が伝えたもの。当時スポーツは、富裕階級の娯楽として楽しまれていたのです。

ワイングラスを
優雅にかたむけつつ…
「オー! ストライク!!」

ボウリング

「最高級銘柄のワイン、あらゆる酒を取り揃えております」。レストランの宣伝? いえいえ違います。1861年6月22日付の英字新聞「ナガサキ・シップング・リスト&アドバタイザー」に開店の広告を出したのは、日本で最初のボウリング場「インターナショナル・ボウリング・サルーン」。場所は大浦居留地に隣接する広馬場地区でした。バーを備え、ワインやビールを飲み談笑しながらゲームを楽しむ、そんなリッチな大人の娯楽だったのです。当時のボウルは大小の3種類あり、指穴もなく抱えるように転がし、倒れたピンはピンボーイが走ってきて並べたそう。明治初期には、居留地内のホテルはほとんどボウリング場を併設していました。



この広告が載った日を、日本ボウリング場協会は「ボウリングの日」としています

レガッタ

青い空、青い
海を舞台に
心をひとつに漕げ!



青年たちが血潮を燃やし、勝利を競う。レガッタ(ボートレース)は居留地に住む外国人たちにとって胸躍るスポーツでした。1864年に長崎港であった大会では、トーマス・グラバーが弟のアルフレッドと組んでカップを獲得したそうです。ちなみにこの時グラバー、まだまだ熱い20代の若者でした!

ヨット

長崎港に初めて
ヨットの白い帆が
風をはらんだ日

1861年7月、日本で造られた初めてのヨットが長崎港で無事進水式を行いました。全長60フィートの船の名前は「ファントム号」。オーナーは英国商人オルト。「ヨット」としてはかなりの大型だが帆船としてはかわいらしいこの船は、オルト家の持ち船として純粋にセーリングを楽しむために造られたと当時の英字新聞は報じています。建造したジェームズ・ミッチェルは英国アバディーン出身の船大工で、下り松にアバディーン造船所を開設。最初の発注がこのヨットでした。



●参考文献／『写真の開祖 上野彦馬』(鈴木八郎監修、産業能率短期大学出版部)、『龍馬の手紙』(宮地佐一郎、講談社学術文庫)、『長崎県文化百選 事始め編』(長崎県、長崎新聞社)
●アラスナビ 上野彦馬/明治に入ると上野彦馬はさらに活動の幅を広げる。明治7年(1874)には、長崎で金星の太陽面通過を観測したアメリカ隊に同行。明治10年(1877)には西南戦争を撮影するなど、報道カメラマンの先駆けでもあった。
●アラスナビ 湿板写真/ダゲレオタイプカメラに比べ、露光時間が短くなり、当時としては画期的な撮影方法。

●参考文献／『長崎県文化百選 事始め編』(長崎県、長崎新聞社)、『長崎異人街誌』(浜崎国男、葦書房)、『時の流れを超えて〜長崎国際墓地に眠る人々〜』(ブライアン・パークガフ、長崎文献社)
●アラスナビ オルトのヨットを建造したジェームズ・ミッチェルは、後にトーマス・グラバーの小管修船場建設を手伝っている。なお彼が、海難事故で死んだ兄弟をしのんで建てた等身大の男性の石像が今も大浦国際墓地(長崎市川上町)に残る。

※このページの年月日は西暦です。

慶応2年(1866)5月2日 ワイルウェフ号事件

希望を託した船と
旧友を失って

船がない！慶応2年、龍馬ら亀山社中は困窮していました。海運に力を入れようにも、思うように運用できる船がないのです。そんな窮状に光を与えたのが、薩摩藩の援助を得て購入した洋式帆船「ワイルウェフ号」でした。159トンの小さな船ですが、積み荷とともに文字通り社中の希望も乗せて、長崎港を出航しました。ところが、目指

す薩摩を目前に激しい嵐に遭います。暴風雨の中を五島沖まで流されて、ついに未明、上五島の潮合崎で沈没。12名が命を落しました。中には龍馬の土佐時代からの旧友、池内蔵太も。「9度戦場に出て一度も弾丸に当たらなかった男なのに」と龍馬は命のけなさを嘆くのでした。船を失ったことで、亀山社中の経営はますます窮乏していきます。このことが、後に土佐藩と和解し、土佐海援隊として再スタートすることにつながっていくのでした。

▼土佐藩参政・後藤象二郎と、紀州藩勘定奉行・茂田一次郎の「いろは丸談判」が行われた長崎の聖福寺

MAP P4-B5



慶応3年(1867)4月23日 いろは丸事件

日本で最初の
蒸気船同士の事故

亀山社中は「土佐海援隊」となり、土佐藩がバツクにつくことで念願の蒸気船が使えることになりました。船の名前は「いろは丸」。積荷を積んで意気揚々と大坂へ。海援隊としての初仕事です。ところが瀬戸内海沖にさしかかった夜、いろは丸の5、6倍はあるうかという巨大な蒸気船と衝突。船は紀州藩船・明光丸でした。しかもあわてた明光丸が操船を誤り、またも衝突。龍馬ら乗組員は全員明光丸に移乗し無事でしたが、

いろは丸は積荷もろとも沈没してしまいます。さらに龍馬たちを怒らせたのは、事故直後の明光丸の不誠実な対応でした。賠償を求める談判は、その後長崎に舞台を移しました。これには土佐の重役・後藤象二郎も乗り出し、紀州藩側は勘定奉行が出てくるというトップ会談に発展しました。後藤と龍馬の巧みな交渉術と世論操作の前に談判は行き詰まります。薩摩藩・五代友厚の調停で紀州藩はついに非を認め、8万3000両(のち7万両に減額)の賠償金を支払うことが決定しました。



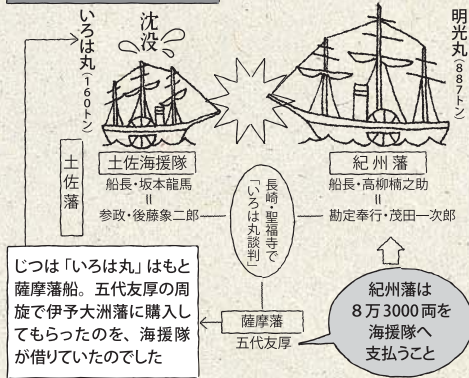
現在、新上五島町の江ノ浜には、遭難した潮合崎を望む「龍馬ゆかりの広場」や「坂本龍馬ゆかりの碑」があるほか、地元の民宿潮騒で「ワイルウェフ号の舵取り棒」を公開

長崎港から上五島・鯛ノ浦行き高速船で1時間30分。港から、ゆかりの広場がある江ノ浜まで車で約30分

龍馬をピンチに陥れた 3船にまつわる 大事件 SCOOP! 検証

長崎を舞台に、龍馬らの社中に3つの大事件が起こりました。今、それぞれに関わった船の名前で呼ばれています。なかには、日本の歴史を変えたかもしれない事件もありました。

図でみる「いろは丸事件」



じつは「いろは丸」はもと薩摩藩船。五代友厚の周旋で伊予大洲藩に購入してもらったのを、海援隊が借りていたのです

紀州藩は8万3000両を海援隊へ支払うこと

慶応3年(1867)7月6日深夜 イカルス号事件

イギリスvs土佐の
裁判抗争

時は風雲急を告げ、討幕へ動き出します。龍馬と土佐藩は、「大政奉還」による穏やかな政権移譲に向けて奔走していた頃です。長崎で起こった1つの殺人事件が、あやうく歴史を揺るがす騒動に発展するところでした。長崎の花街、丸山の路上で深夜斬殺されたのは、イギリス軍艦イカルス号水夫のロバート・フォードとジョン・ホッチングス。目撃証言やさまざまな状況証拠から、イギリス公使パークスは犯人を海援隊士と断定。長崎奉行に捕縛を申し入れますが、奉

行側は「証拠不十分」として拒否。パークスは黙っていません。幕府に厳しく抗議し、土佐藩と直接談判。その後再び長崎奉行所での談判となります。海援隊長の龍馬と土佐藩大監察・佐々木高行らが出頭し、1カ月ちかくの取調べが続きました。「土佐とイギリスの戦争が始まるのか!」「大政奉還は?」といった不安の中、審議の結果は「証拠不十分につきお構いなし」。龍馬はただちに政治活動に戻ります。維新後、パークスは明治政府に再調査を依頼し、その結果、真犯人は福岡藩士の金子才吉と判明しました。



▲丸山寄合町の遊郭引田屋(ひけたや)裏の路上で、深夜2時頃殺害か? (外務省編纂「続通信全覧」の取調絵図より)



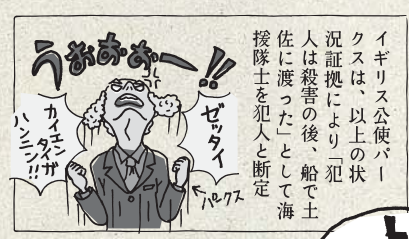
▲長崎市寄合町(よりあいまち)の当時の殺害現場付近。現在はマンションや駐車場が並ぶ通り



長崎運上(のちの長崎税関)での審問の席で、龍馬はイギリス側の言い分をばかにして声をたてて笑った態度を、通訳アーネスト・サトウから叱りつけられました。「彼は悪魔のような怖い顔つきをして黙り込んでしまった」とサトウは日記に書いています



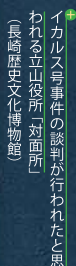
なぜ海援隊は疑われたか?



▲「史料亭」花月」に大切に保管されている、龍馬の抗議文書。イカルス号事件のとき、奉行所に龍馬が提出するために書いた抗議文の下書きで、佐々木高行と草案を練った



お構いなし。



イカルス号事件

「龍馬伝」が話題になっているなか、坂本龍馬が長崎の何処を訪ねたか、何処へ出向いたか、その事実確認は大変重要である。長崎奉行所を一例として考えてみよう。

坂本龍馬(変名 才谷梅太郎)は
慶応3年(1867)8月から9月にか
けてイカルス号事件の証人・参考
人として長崎奉行所に出頭したと
いう。イカルス号事件については
本誌(P18)を参照してもらうとして
水兵2人殺害の嫌疑が海援隊員に
かかっていた。このため海援隊長
の龍馬が長崎奉行所に喚問され
たわけである。上方にいた龍馬は土
佐藩重役佐々木三三四郎(高行)と
ともに土佐藩船「夕顔」に乗り、8
月15日長崎に到着した。

『岩崎彌太郎日記（瓊浦日歴）』
の8月18日の記事によれば、「今日
四ツ時立山役處へ佐々木、坂本
輩一同、横笛船呼返ノ義二付、今
更呼返二ハ不及様論辯二出掛ル
筈ナリ」とあって、この日龍馬が立
山役所に出頭したのは確実と思わ
れる。

同様な記事は『佐佐木老侯昔日談』にもあって「十八日に始めて立山役所に於て談判を開く事になった。先方は長崎奉行能勢大隅守徳永石見守、外国奉行加役平山図書頭・・・」と談判が開始され

たことを記す。同書によると、その後も21日、22日、23日と連続して立山役所で談判が行われた。さらに、9月2日「横笛」が薩摩から呼び戻されると、早速「翌三日佐々木(栄)、渡邊、橋本の三人が西役所へ召喚されて取調べを受け、松井周助、才谷梅太郎も證人として出頭し」、続いて6日・7日の談判も西役所で行われた。

9月10日にいたり西役所へ佐々木三四郎と坂本龍馬が出頭し、土佐海援隊に嫌疑なしということで事件は決着したのである。

月番制

一方『岩崎彌太郎日記（瓊浦日
歴）』の記事では、9月7日に「鎮臺」、
8日に「西役所」、10日に「鎮臺」
とあって、両書を併せると、8月は
立山役所、9月は西役所で取調べ・
談判が行われたようだ。つまり、
両役所の月番制が考えられる。

関連史料を捜すと、長崎奉行所
「手頭(てがしら)留」の慶応2年
8月に次のような記事があった。

調役江
年番町年寄江

以來東西兩御役所おいて月番相立御
用向取扱候条諸事月番方江可申出候、
尤來月者石見守相心得、大隅守非番中
者西御役所江出張御用向申談候間可得
其意候

右之通申渡候間得其意支配之もの江
も可相候

寅八月廿九日

概略は次のとおり。これからは東西両役所で月番制をとるので用向きはその月の月番の役所に申し出るように、来月（9月）は西役所の徳永石見守が月番で非番（立山役所）の能勢大隅守は西役所に出張して処置にあたる、以上のことを支配の者たちへ伝達せよ。

能勢大隅守と徳永石見守は1年後も長崎奉行を務めていたから慶応3年8月は立山役所（能勢大隅守）が月番であり、9月は西役所（徳永石見守）が月番になるとすれば『岩崎彌太郎日記』・『佐佐木老侯昔日談』の記事と矛盾せず、龍馬ら土佐藩関係者が8月は立山役所へ、9月は西役所へ出向いたのは確実と思われたが・・・。

これらの事実を、当時のもう一つの史料である『池道之助日記』で確認してみると、矛盾したことが記してあった。その日記には8月もイカルス号事件の談判・審理が西役所で行われたとあってこれまで述べた佐々木・岩崎の記録と異なっている。残念ながらもう少し史料の精査が必要となる。

➡ **アラスナビ** 対面所/立山役所・西役所で行われたイカルス号事件の談判には、能勢(のせ)・徳永の両長崎奉行、外国奉行平山図書頭が出席しており、その場所は対面所から次の間にかけてと考えられる。奉行3人が床を背に座り、佐々木土佐藩上士が対面。龍馬らは、次の間に控えていたのではないかと。

➕プラスナビ 鎮臺（ちんだい）／ここでは長崎奉行所のこと。

幕末の長崎県 主な藩情勢

参考文献／『藩史大事典 第7巻 九州編』『長崎県史 藩政編』

平戸藩

ひらはん

山鹿流兵学を主流とし、嘉永3年（1850）には21歳の吉田松陰が訪れ山鹿万介に学んだ。幕末には徹底した軍制改革をはかり、藩士を長崎に送って洋式操砲を学ばせ

る。「公武合体論」から、戊辰戦争直前に「討幕」へ藩論を転換。新しい軍隊組織を奥羽平定に差し向け、維新後に3000石を加増される。9代藩主・松浦清（静山）の孫である慶子は孝明天皇の朝廷にあり、明治天皇を生んでいる。

大村藩

おおむらはん

長崎警固の役目をもつ大村落では、外国からの脅威に備える軍制改革が急務だった。西洋式練兵を採用し、銃隊を編成。また藩校「五

正隆、渡辺昇などすぐれた人材を、長崎・江戸へ遊学させた。彼らは後に藩の主導権を握る改革派「三十七士同盟」を結成。渡辺昇は坂本龍馬、高杉晋作、桂小五郎らと「薩長同盟」を画策し、やがて薩長と共に討幕に動く。

島原藩

しまはらはん

文久3年（1863）、11歳で最後の藩主となった松平忠和は、15代将軍徳川慶喜の実弟だった。譜代藩ということで佐幕の思想が強く、第一次・第二次長州征討に幕府

軍として参加。それに対し、下級武士を中心に尊王攘夷論が起こる。「激烈組」が結成されるなどの混乱はあったが、尊攘思想が藩の大勢を動かすことはなかった。維新後は新政府に恭順し、戊辰戦争にも参加した。

五島藩

ごとうはん 福江藩

江戸時代後期には異国船の来航が相次ぎ、五島列島の海岸警備が強く求められるようになった。藩では築城計画を幕府に提出する一方、捕鯨業など産業振興をはか

り、さらに農兵制を採用して大浜で操練を行った。嘉永2年（1849）には悲願の築城が許可され、14年後の文久3年（1863）工費約2万両を費やして福江（石田）城は完成した。江戸幕府下における最後の築城として著名である。

対馬藩

つしまはん 府中藩

佐幕派と尊攘の革新派の抗争の中、文久元年（1861）にロシア軍艦「ボサドニック」号が茅渚湾内に進出し、芋崎を占拠。藩は幕府や長崎奉行に援助を求めた。江戸での協

議には勝海舟も関わっていた。約半年後に英国軍艦2隻が対馬を訪れ退去させる。この事件の折、尊攘革新派が江戸家老・佐須伊サドニツク号が茅渚湾内に進出し、芋崎を占拠。藩は幕府や長崎奉行に援助を求めた。江戸での協

トーマス・グラバー (1838～1911) 28歳

英国商人。開国後すぐ長崎を訪れグラバー商会を設立。武器・艦船取引で討幕派を支援。五代友厚や長州五傑の英国渡航を援助。高島炭鉱開発や小菅修船場の設立など日本の近代化に尽力する。

小松帯刀 (1835～1870) 31歳

薩摩藩家老。坂本龍馬と親しく、亀山社中設立の援助や、長州藩の井上馨と伊藤博文を長崎薩摩藩邸にかくまい、グラバーと引きあわせるなど維新の立役者。長崎の小菅修船場設立に尽力。

伊藤博文 (後輔) (1841～1909) 25歳

長州藩出身。慶応年間に長崎を幾度となく訪れ、グラバーの密かな計らいで井上馨とともに英国留学を果たしている。明治18年に初代内閣総理大臣に就任。のち、5代・7代・10代を歴任。

井上馨 (前多) (1835～1915) 31歳

長州藩士。グラバー手配によるイギリス留学で開国派へ。伊藤博文とともに長崎で武器を調達。明治に入ってから長崎裁判所（のちの長崎県庁）参謀を務める。外務大臣や大蔵大臣など歴任。

勝海舟 (1823～1899) 43歳

幕臣。安政2年から長崎海軍伝習所で学ぶ。本蓮寺に寄宿し長崎の女性・梶クマとの間に子どもをもうけた。元治元年に幕府の命で再度長崎を訪れている。なお、梶クマの墓は、聖無動寺後山にある。

ウィリアム・オルト (1840～1905) 26歳

英国商人。開国後すぐに長崎でオルト商会を設立。大浦慶と一緒に九州の製茶をアメリカなどへ輸出する事業で巨額の利益を得る。土佐商会の岩崎弥太郎との関係も深い。

五代友厚 (才助) (1835～1885) 31歳

薩摩藩士。長崎海軍伝習所に学ぶ。グラバーとは親交が深く、武器商談や英国留学などを実現。明治に入り大阪株式所や大阪商法会議所などを創設し大阪経済界の発展に貢献した。

福沢諭吉 (1834～1901) 32歳

中津藩士。長崎では光永寺（長崎市桶屋町）などに寄宿し蘭学や砲術を学ぶ。勝海舟が指揮官を務めた咸臨丸に乗船し渡米。慶應義塾を創設するなど、教育活動にも力をいれた。

松方正義 (助左衛門) (1835～1924) 31歳

薩摩藩士。慶応3年、軍務局海軍方として長崎と鹿児島を往復。軍艦の買い付けに奔走。明治に入り長崎裁判所参謀を務める。のち日本銀行を設立し、第4代・6代の内閣総理大臣に就任。

陸奥宗光 (陽之助) (1844～1897) 22歳

紀州藩を脱藩後、神戸海軍操練所、亀山社中、海援隊と、坂本龍馬と行動を共にした人物。ヨーロッパへ留学し、第2次伊藤内閣で外務大臣となり、日清講和会議全権を務めた。

大隈重信 (八太郎) (1838～1922) 28歳

佐賀藩士。慶応元年、長崎に佐賀藩洋学塾「致遠館」を設立。指導の傍ら、フルベッキに英語や法学などを学ぶ。東京専門学校（のちの早稲田大学）を創設。第8代・17代内閣総理大臣に就任。

後藤象二郎 (1838～1897) 28歳



と、龍馬さんも読みハマる!? シリーズです。

思わず旅したくなる歴史ガイドブック
長崎県企画「ながさき歴史発見